

国宝姫路城の保存修理観覧時 を含むバリアフリー化



提供 神戸新聞社

平成27年9月3日

姫路城管理事務所



平成27年3月26日

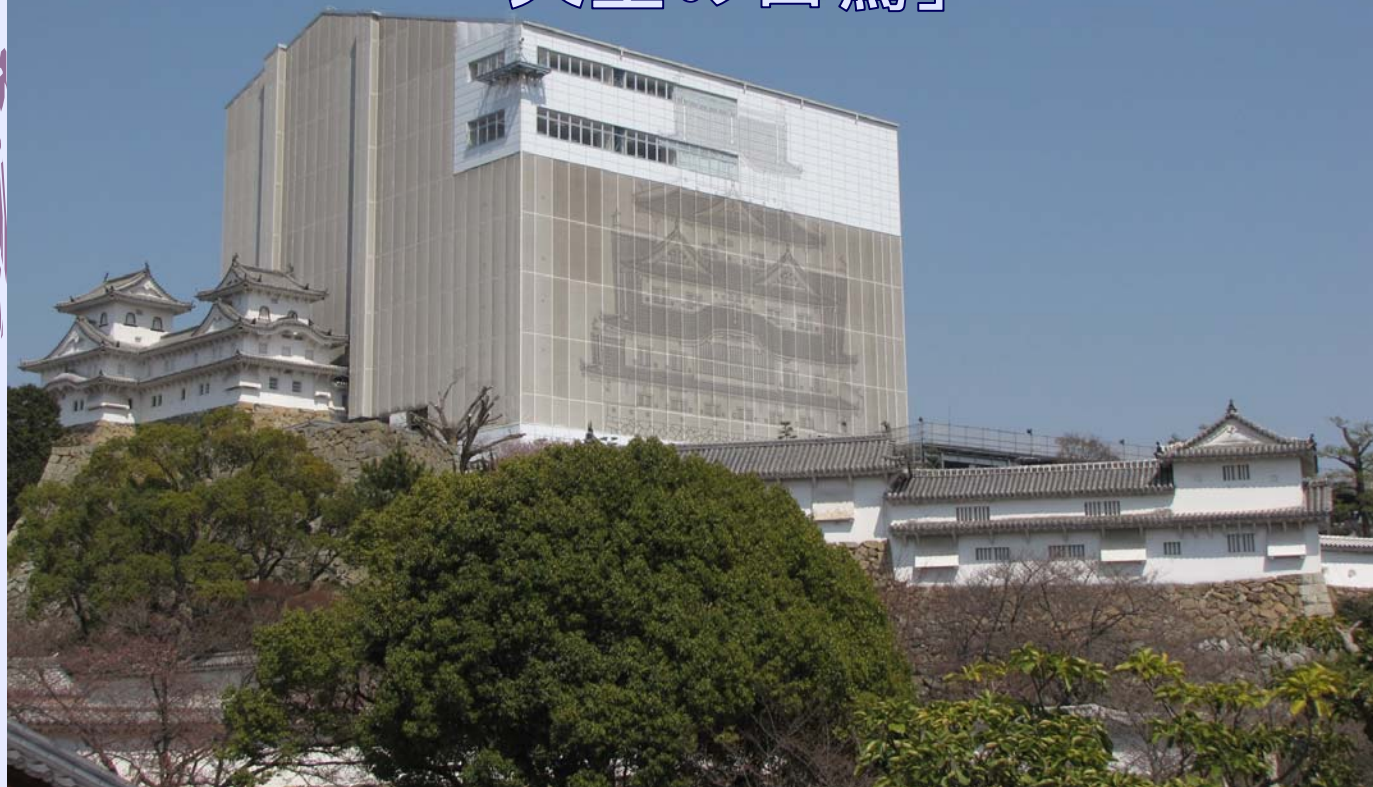
姫路城大天守保存修理完成記念式典



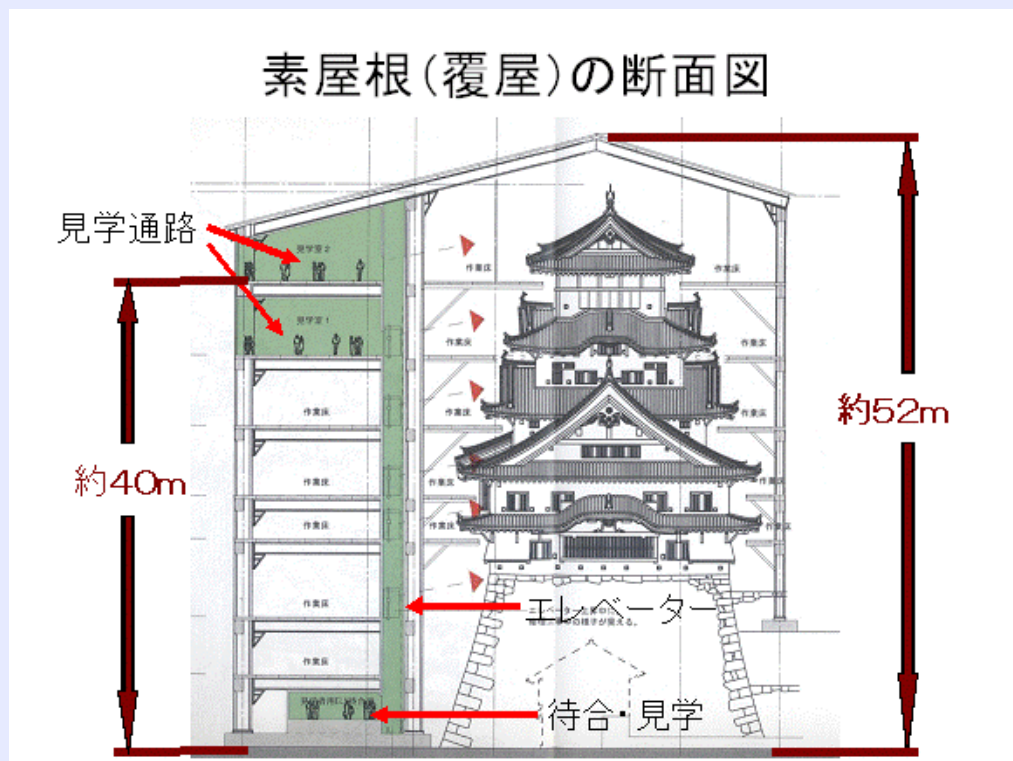
平成27年5月10日(日)

姫路城大手改札口

姫路城大天守修理見学施設 「天空の白鷺」



■ 「天空の白鷺」内部



■ 「天空の白鷺」内部(1階待合・見学)

■ (1階待合スペース)

■ (1階見学スペース)



■ 「天空の白鷺」内部(8階見学)

■ (8階見学スペース)



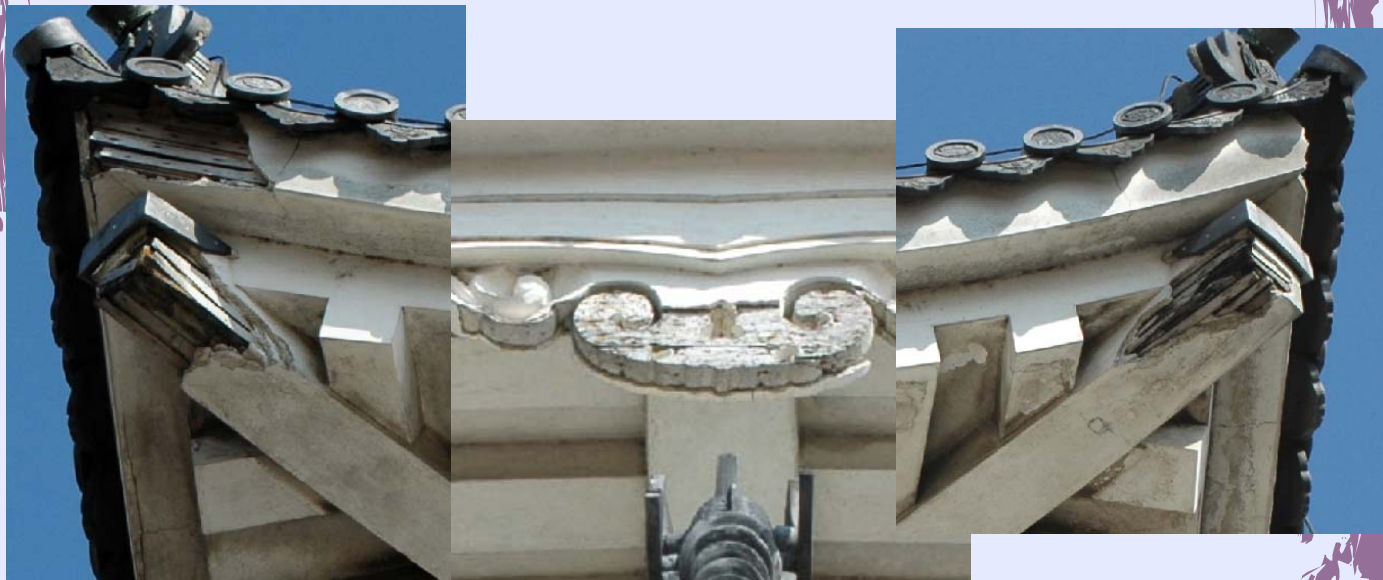
■ 「天空の白鷺」内部(7階見学)

■ (7階見学スペース)



■ 修理の背景

昭和の大修理から概ね50年が経過し、壁や屋根の傷みが激しくなったため。



■ 文化財の保存活用（もう一つの修理の背景）

国宝、世界遺産としての姫路城

姫路城は文化観光施設として国内外に発信



大天守が見えなくなること、また、大天守内部に登ることができなくなるなど、観光面でのマイナスが発生



工事そのものを地域資源、観光資源に活用



「修理現場からの文化力」の実践施設



■ 調査及び検討会の開催

(1) 調査等の実施(平成17年度から)

1 構造実験・部分解体調査

2 非破壊漆喰剥離調査

3 航空写真と3D計測を用いた調査

4 登閣ルートของバリア調査 等



(2) 姫路城大天守保存修理検討会の設置(平成17年度から)

1 学識経験者等8名の委員及び国、県の担当で構成
専門委員会も設置(構造や登閣者対策等の検討)

2 ①世界文化遺産にふさわしい修理方法

②工事期間の見学者への対応等

③その他、事業を進めるに当たり必要な事項

■ 大天守保存修理事業の基本方針(平成20年3月)

世界遺産であり、国宝である姫路城大天守の外壁および屋根瓦の補修と耐震性能評価に基づく構造補強などの保存修理工事を実施する。世界遺産の大規模な改修工事ということから、以下の方針により原則公開とし、文化財の保護、保存修理に対する啓発やPRを行うとともに、世界遺産姫路城の価値を広くアピールする。

① 工事に影響のない範囲で文化財の公開を継続する

② 工事現場は公開とし、安全対策を施したうえで工事期間中ならでの見学ができるようにする

③ 登閣が困難な人の見学機会の確保や関心の少ない市民の誘導を図る

■ 登閣ルートへのバリア調査



県立福祉のまちづくり研究所による第1回現地調査



県立福祉のまちづくり研究所による第2回現地調査

■ 登閣ルートでのバリア調査 2



■ 調査結果(整備の在り方)

(1) 場所に合わせたできる限りのハード面の整備を行う。

※特別史跡と現状変更許可

(2) 車いすの貸し出しを行い、ポイントでの支援で安全性を高める。

(3) 経路の現状、介助方法、姫路城側の介助範囲の情報発進が必要。

※特別史跡と現状変更許可

史跡とは・・・

城跡等、その他政治に関する遺跡で、我が国の歴史の正しい理解のために欠くことができず、かつ、その遺跡の規模、遺構、出土遺物等において、学術上価値あるもの

特別史跡とは・・・

史跡のうち学術上の価値が特に高く、わが国文化の象徴たるもの

現状変更とその許可

史跡名勝天然記念物に関しその現状を変更し、又はその保存に影響を及ぼす行為をしようとするときは、文化庁長官の許可を得なければならない

現状変更等の取り扱い

(1)許可を要しない行為

- ①維持の措置を執る場合
- ②非常災害のために必要な応急措置を執る場合
- ③保存に影響を及ぼす行為については影響が軽微である場合

(2)市教育委員会が行う現状変更等に係る許可

- ①小規模建築物であって、建築面積が120㎡以下で3月以内の期間を限って設置されるものの新築、増築、改築又は除却
- ②工作物の設置、改修又は除却、又は道路の舗装若しくは修繕
- ③特別史跡の管理に必要な標識、説明板、境界標、囲いその他の施設の設置、改修又は除却・・・

■ 姫路城のバリアの軽減

- (1) スロープの設置(坂3か所、施設前4カ所)
- (2) 経路の補修等
 - ①路面の補修
 - ②溝の段差解消等
- (3) その他
 - ①身障者用仮設トイレの設置(備前丸)
 - ②多目的トイレの設置(三の丸西側)

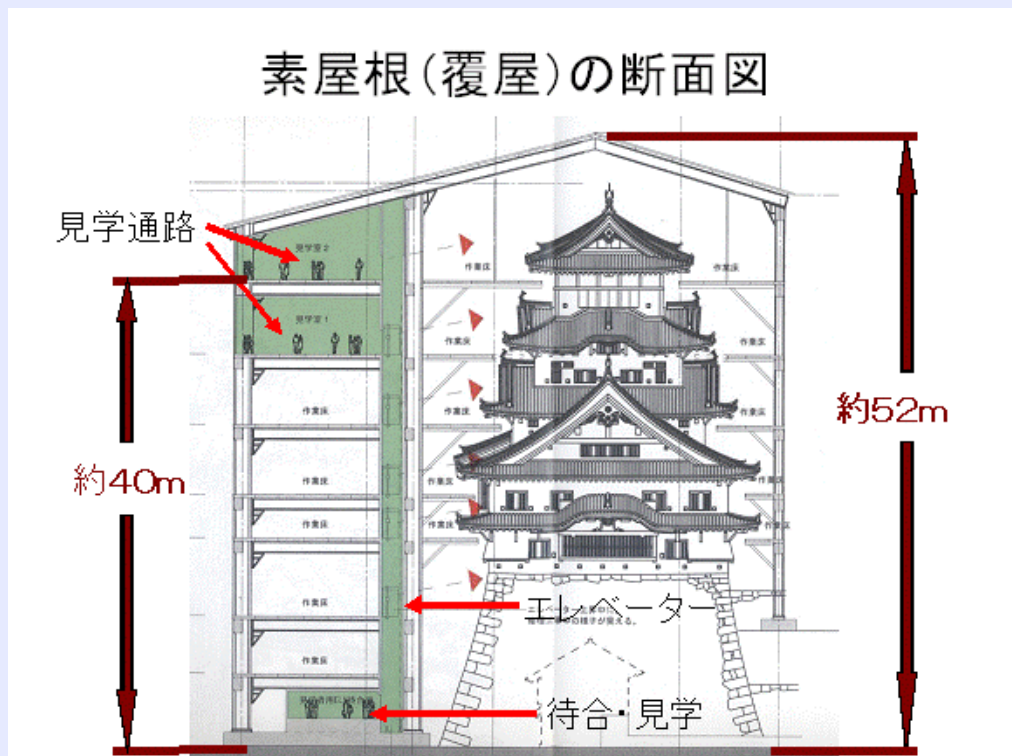
■ 登閣ルートへの整備状況







■ 「天空の白鷺」内部(エレベーターの設置)



■ 「天空の白鷺」内部(エレベーターの設置)



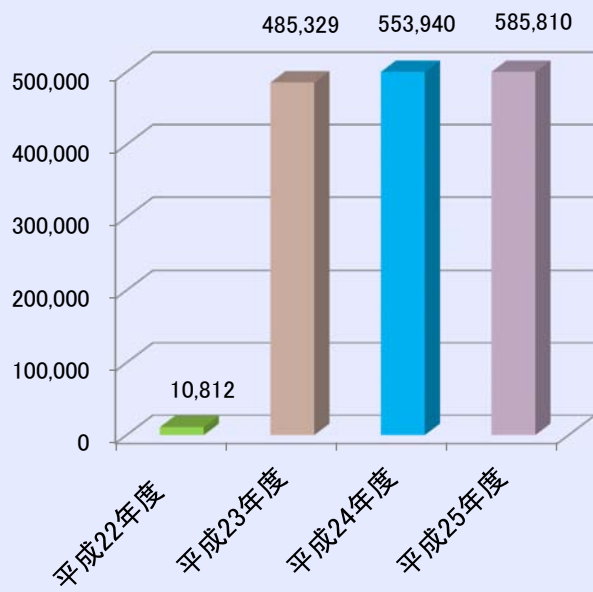
■ 運営面での工夫

- (1) 介助スタッフの設置(常時及びボランティアスタッフ)
- (2) アシストホイールの設置(5台)
- (3) 介助情報の発信
- (4) 予約システムで情報の事前把握
- (5) 車イス来城者の減免拡大
介助者3名まで無料に

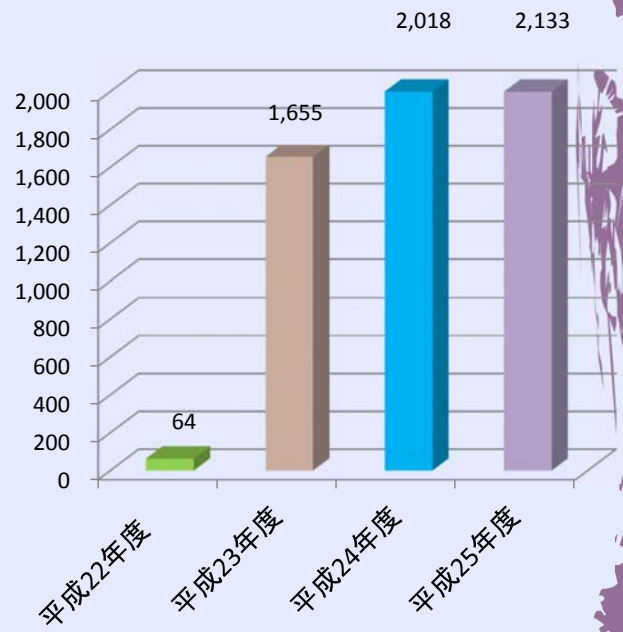


効果 1年で十数台の車いすでの見学者が、
1日平均5.73台に増(合計5870台)

入館者数



車いす



■ 「天空の白鷺」と車椅子利用者



■ 今後の展開

文化財としての本質的価値とバリアフリーの関係

- (1) 本質的価値を損なわない範囲で可能なことを実施
 - ① 建造物内の工夫
設置型の簡易スロープで段差の解消の検討
 - ② 経路の補修
 - ③ インターネット環境の充実
- (2) 運営面での工夫の継続を検討
- (3) サイン、展示、パンフレットの更新

■ サイン、展示、パンフレットの更新

姫路城では増加傾向にある外国人観光客に対応するため、「誰にも楽しめる展示」と「多言語化」を進めている。



利便性・理解度・満足度の向上



姫路城の知名度アップ

リピーターの増加

■ 主な実施例

ARアプリ『姫路城大発見』



- ◇日本語
- ◇英語

来城者用パンフレット



- ◇日本語
- ◇英語
- ◇繁体語
- ◇簡体語
- ◇韓国語
- ◇仏語

城内案内・説明サイン



- ◇日本語
- ◇英語
- ◇繁体語
- ◇簡体語
- ◇韓国語



- ◇日本語
- ◇英語

